

(4) 放課後等デイサービスの現状及び今後の課題について

—利用児の保護者へのインタビュー調査から—

医療福祉学研究科医療福祉学専攻博士後期課程 ○泉 宗孝
医療福祉学研究科医療福祉学専攻 末光 茂
新見公立大学（非常勤講師） 八重樫牧子

【目的】

放課後デイを利用する保護者へのインタビュー調査から、放課後デイの利用状況、子どもの放課後生活への不安・負担、ニーズ、利用者評価などを把握し、放課後デイを中心とした障害のある子どもの放課後生活に関する課題について明らかにする。

【方法】

調査対象は、同県内で社会福祉法人が運営する放課後デイ事業所（4事業所）を利用する保護者8名である。調査期間は2022（令和4）年9月～2023（令和5）年2月である。半構造化面接法により、放課後等デイサービスガイドラインの基本的役割などについてインタビュー調査を実施した。分析方法はインタビュー内容から逐語録を作成し、質的データ分析ソフト MAXQDA2022を用い、本研究の目的に即し、自由記述内の記述にコードを付けた。

【結果】

調査結果から、5つのカテゴリーを生成した。カテゴリーは【】、中カテゴリーは〈〉、小カテゴリーは<>、コードは〔〕で示す。放課後デイの利用児の保護者は〈保護者自身の就労への不安及び負担〉や〈子育てに関する不安やストレス〉などの【子どもの放課後生活や保護者自身の不安及び負担】を抱えていた。【放課後デイのサービスの利用状況】

では、保護者は〈幅広い支援内容〉を利用し、〈サービスが異なる放課後デイの併用〉をしていた。放課後デイを利用することによって〈放課後デイに求める支援内容〉や〈家族への支援をしてほしい〉などの【放課後デイを中心とする放課後生活へのニーズ】が顕在化していた。【放課後デイを中心としたサービス利用者評価】として、〈放課後デイに対する肯定的な認識〉や〈放課後デイ利用による保護者負担の軽減〉など肯定的な評価があったが、〈放課後デイのサービス内容への不安及び負担〉など否定的な評価もあり、放課後デイの〈不十分な利用日数及び利用時間〉や〈希薄な地域との交流〉、障がいのある子どもの〈放課後の居場所の選択肢が少ない〉など【放課後デイを中心とした放課後生活の課題】が明らかになった。

【考察】

〈放課後デイの利用による保護者負担の軽減〉を感じているが、〈放課後デイに求める支援内容〉などのニーズは、〈放課後デイのサービス内容への不安及び負担〉、〈年齢や成長に合わせた支援を受け難しさ〉などの利用者評価からも、ニーズの充足が不十分であると考えられ、【放課後デイを中心とした放課後生活の課題】への検討が必要である。